

玉城デニー知事は沖縄県民の勝利

報告＝松島 和幸・真相を広める会会員、元千代田区労協副議長（日本テレビ出身）



沖縄県知事選、翁長前知事の遺志を引き継いだ玉城デニーさんが見事勝利しました。これ以上、新基地を沖縄に作らせないという沖縄県民の勝利です。

*

千代田区労協から私も含めて 3 人が、沖縄県知事選挙応援のため 9 月 17 日から 4 日間、現地に派遣されました（実際に活動したのは 18、19 の 2 日間）。ホテルに着くと同時に、かつて私と同じ民放労連で活躍した元沖縄ラジオの工藤幸雄氏に連絡し、現地の生の状況、活動時の心得など教えてもらいました。

18 日、9 時「オール沖縄統一連」事務所に集合。参加者は 50 名ほどで名簿を見ると、全国各地からの名前が連っており、神奈川からの参加者が目立ちました。行動の指示をするのは瀬長カズオさん。この人は瀬長亀次郎のお孫さんでした。瀬長亀次郎さんは「一握りの砂、一坪の土地もアメリカのものでない」と発言し、「米軍が最も恐れた男その名は、カメジロー」と言われる米軍と戦った伝説の人です。

18 日はビラ入れ。わたしたちの担当地域は宜野湾市の「大謝名 5 丁目」ほか。わたしのビラ入れの作法は店など戸が開くところは開ける、ビラの意図を伝えお願いする。出会う人にもなるべく声を掛ける。反応は良い「ご苦労様」「デニーさんよく知っている」などなど。行動時間は 10 時～12 時、14 時～16 時「暑い、特に直射日光が強いので無理しない」の指示。参加者は高齢者が多いので心遣いがうれしい。



19 日はノボリ旗、プラカードをかざしてスタンディング＆ウオーキング。那覇市の「おもろ町」一帯を練り歩く。この辺り

は返還された元米軍基地だといいます。「デニーさんをよろしく」と声を張り上げる（写真）。

若者がわたしに声を掛けてきました。「デニーさんに入れますが、基地の事ばかりでなく、経済の事、子育てのことなど訴えたら」と言う。わたしは沖縄に来て、米軍基地の広さ（車で移動時、渋滞にイライラ、その横の米軍基地のなんと広いことか）に驚き、米軍の特権的な存在を改めて目の当たりにし、これらが大きく沖縄の経済に影を落としていると感じました。沖縄の若者にそのことを教えられました。

好評だったのは、事前に千代田区労協から送ってもらった（山梨県の）ブドウ。持参した事務所で、応援に駆け付けた全国からの仲間にも振る舞われました。これは美味しかった。最後に、この応援のためにカンパに協力くださった多くの皆様に改めてお礼申し上げ、その一人一人の顔を浮かべながら厚く感謝し「18 沖縄県知事選挙勝利」を喜び合いたいと思います。

（真相を広める会・事務局は、松島さんら 3 人の沖縄知事選応援派遣に、カンパで協力しました）

西岡力氏の植村記者「記事捏造」攻撃の言い分崩壊

9.5植村裁判東京訴訟第13回口頭弁論

植村さんを「捏造記者」と攻撃する方が捏造をしていた——。植村隆・元朝日新聞記者が西岡力氏と文藝春秋社を名誉毀損で訴えた東京訴訟第13回口頭弁論は、9月5日10時20分から17時まで、東京地裁103号法廷で開かれた。傍聴席は抽選かなと思ったがなし。札幌訴訟が毎回抽選になるというのに、ちょっと気になった。午前は被告側の竹中明洋・元週刊文春契約記者、午後は植村隆・元朝日新聞記者と被告側の西岡力・麗澤大学客員教授のそれぞれ尋問が行われた。

原告側の吉村功志弁護士は、竹中証人に対して、週刊文春掲載の「「慰安婦報道」朝日新聞記者がお嬢様女子大教授に」記事で、「朝日新聞関係者の談話」として、植村さんが言っていないことを書いたことの矛盾などを追及した。竹中証人は、答弁に詰まると「記憶がない」を連発し、傍聴席から失笑を買った。

午後の尋問の最初は植村隆さん。主尋問では、永田亮弁護士の質問に答えて、不当な捏造攻撃を受けた後、本人、家族、大学への脅迫やいやがらせの実態を証言し、「私の生活はすたすたにされ、私の夢は断たれたままだ」と強調した。

最後に裁判官席に向かって「私は捏造記者ではありません。私は当時、被害者やその支援者団体の人々から聞き取った話を正確に記事にしたに過ぎません。裁判所に提出した証拠資料を精査していただければ、私が捏造記者ではない、ということは明らかだろうと思います。私にかけられた不当なレッテルをはがしてください。そのような判決を望みます」と主張した。

注目したのは、植村さんに対して「捏造」攻撃をしている中心人物の西岡力氏の証言だ。反対尋問した穂積剛弁護士は、西岡氏がこれまで著書や雑誌に書いたコメントを徹底調査した上で、その矛盾を質した。

植村さんが1991年に韓国で初めて元慰安婦として名乗り出た金学順さんについて書いた記事で、西岡氏は①「女子挺身隊の名で戦場に連行され」という本人が述べていない経歴を加えた②本人が述べた「親に40円でキーセンに売られた」という経歴を書かなかった、などを理由に「ねつ造」と主張。論拠として、同年8月の韓国紙ハンギョレ新聞の記事や同12月に日本政府を提訴した際の訴状で、金さん本人が「親に身売りされて慰安婦になった」と述べていると指摘していた。

ところが法廷の尋問で、金さんの訴状にも、韓国紙の記事にも、西岡氏が書いたような記述はないことが明らかになった。それどころか、金さんの記者会見を報じた韓国各紙によると、金さんは自らを「挺身隊」



報告集会で決意を表明した植村隆さん。下は植村裁判勝利の意義を語った右から新崎盛吾さん、崔善愛さん、香山リカさん

だったと話していた。また、会見を伝えたニュース映像で、本人が「強制的に引っ張っていかれた」と述べていたことが確認された。

さらに、証人の著書「よくわかる慰安婦問題」で、韓国のハンギョレ新聞記事が書いていないことを追加して引用した事実を指摘したが、西岡氏の答弁はしどろもどろ。植村さんを「捏造記者」と攻撃している方が「捏造していた」のだ。（一部、植村裁判を支える市民の会ホームページから引用）

「勝利までさらに支援を」報告集会で確認

口頭弁論後、日本プレスセンターで開かれた報告集会では、精神科医の香山リカさん、ピアニストの崔善愛さん、共同通信記者の新崎盛吾さんが、「慰安婦報道の真実とは」と題して問題提起。さらに神原元、永田亮、穂積剛の各弁護士が、全力をあげて今日の証人尋問に臨んだことを述べ、札幌訴訟弁護団の小野寺信勝、渡辺達生両弁護士が、植村裁判に勝利することの大切さを訴えた。

原告弁護団は、さらに2人の証人を申請したが却下され、11月28日14時からの口頭弁論で結審となる予定。これに先立ち、札幌訴訟は11月9日に判決が言い渡される。

札幌・東京訴訟とも勝利を目指して引き続き注目し、支援していきたい。（水久保文明）

「安保条約・地位協定ある限り事故は再発する！」

館野鉄工所米軍機墜落事故から 54 年 オスプレイ配備を許すな

1964 年の東京オリンピック開催直前の 9 月 8 日、米海軍厚木基地を飛び立った米軍機が厚木基地北端右側の大和市にあった館野鉄工所に墜落した。館野正盛さんの長男、次男、三男、甥、従業員のうち 3 人が即死、2 人は救出されたが、病院で亡くなった。

事故から 54 年後の 9 月 8 日、10 時から神奈川県大和市の墜落跡地で行われた「館野鉄工所米軍機墜落事故慰霊祭」に参加した。



「兄たち 5 人の無残な死を繰り返させないために語り継いでいく」と声を詰まらせて訴えた＝写真。

館野正盛さんは 2004 年 6 月 17 日、88 歳で亡くなったが、この事故を風化させない行動が続けられている。2014 年には「館野鉄工所墜落事故 50 周年慰霊実行委

員会」が結成され、同年 9 月 13 日に慰霊祭を開催。以後、「館野鉄工所墜落事故慰霊実行委員会」主催で墜落事故現地での慰霊祭を継続している。

墜落現場は現在、国有地となっているため、慰霊碑の土地代を国に支払っているが、同実行委員会は 50 周年を機に、同現場を記念公園にする運動を起こしている。国側は「大和市から使用をもとめられれば前向きに検討する」と表明しているので、大木哲大和市長に 14000 人の署名を提出して運動を継続している。



上＝1989 年 9 月 3 日、墜落事故 25 周年で行った大和市内デモ。先頭右から二人目が館野正盛さん。下＝館野鉄工所跡にある慰霊碑を囲んで行われた 54 年目の慰霊祭。

員会」が結成され、同年 9 月 13 日に慰霊祭を開催。以後、「館野鉄工所墜落事故慰霊実行委員会」主催で墜落事故現地での慰霊祭を継続している。

墜落現場は現在、国有地となっているため、慰霊碑の土地代を国に支払っているが、同実行委員会は 50 周年を機に、同現場を記念公園にする運動を起こしている。国側は「大和市から使用をもとめられれば前向きに検討する」と表明しているので、大木哲大和市長に 14000 人の署名を提出して運動を継続している。

安倍政権はいま、5 兆円を超える防衛予算の下で、米国製高額武器を買い、石垣島等へ自衛隊を配備し、さらには、米軍のオスプレイ配備を容認し、沖縄辺野古への米軍基地建設を強行している。54 年前と何も変わっていない。いや安倍政権はもっと質が悪い。

館野さんは亡くなるまで「安保条約・地位協定をなくさない限り事故は必ず起こる」と言い続け、防衛庁への抗議では怒りを込めて対決した。一方、交流会などでは、中小企業の親父そのものだった。慰霊碑の前でそんな温顔を思い浮かべた。（福島 清）



従属・屈辱の根源 “日米地位協定、 全面改定を要求すべきだ！

9月28日毎日新聞夕刊ワイドは、『「米軍の特権」いつまで』『全国知事会が抜本的見直し提言『主権』なき日米地位協定』を特集し、日米地位協定の問題点を的確に指摘している。10月1日、米軍は首都圏の横田基地に本土で初めてオスプレイ配備を強行する。立川市民の一人として、無関心ではいられない。

特集はこう指摘している。

「日本は米軍機の訓練を制限する権限がなく、事故を捜索する権利も行使しないという。なぜなら日米安保条約に基づいて在日米軍の特権を認めた日米地位協定があるからだ」、「今年8月、全国知事会が政府や在日米国大使館に、日米地位協定の抜本的見直しを求める提言を提出したのだ。……知事会を動かしたのは、当時の翁長雄志沖縄県知事の下で行った第二次世界大戦敗戦国のドイツとイタリアが、米軍と結んだ地位協定の現状をまとめた報告だった」

として「日本、ドイツ、イタリア3国の地位協定関連条文の比較調査」結果を一覧表にしている。そこには、駐留米軍に対して日本は国内法が原則不適用だが、ドイツとイタリアは原則適用されているとある。ドイツとイタリアも日本と同様だったが、冷戦終了後、ドイツは93年、イタリアは95年に大幅な改定を実現しているのだ。日本だって、国内法を適用させれば、オスプレイ飛行は即座に阻止できるのだ。

国土も空もアメリカ軍に奪われていることを屈辱と感ぜない安倍自公政府って、いったい何なんだ。植村さんに対して、日本を貶める記事を捏造したと攻撃しているいわゆる右翼と呼ばれる連中は、これだけ日本の主権が踏みにじられているのに、一言も言わないのは何故なのか。攻撃する相手を間違えていないか。

<コラム> 冤罪忘れるな！⑦

応召・服役・消息不明

元夜学生・丸山 護

丸山は、日中戦争による徴兵で、1939年8月に札幌近郊に駐屯の連隊（陸軍）に入隊し、中国北部で転戦のあと、41年5月に除隊。この間、面会に来た友人や休暇中に訪ねたレーン夫妻に応召時の経緯や入隊先の様子、隊の移動などを話したことが軍機保護法違反だとされ、41年12月27日に検挙、翌42年12月に懲役2年の有罪判決を受け、控訴せず服役した。



夜学生だった丸山護は、戦時下であつてもレーン夫妻に英語を学ぼうとしたのだ

丸山は、判決時29歳。レーン夫妻とは、夜学生だった21歳の頃、中学（旧制）への編入を目指し、英語の手ほどきを受けたのが機縁だった。だが分っているのはこれだけで、服役した刑務所、出所後の所在、戦後の動静、一切の消息が不明となっている。夫妻に話したとされる内容は、判決によっても応召の外形に止まっており、高度の軍事機密からは程遠い。その実態と共に、一人の人生が闇に封じ込められている。



「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版（本会編）
『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部＝冤罪の真相、第2部＝冤罪事実の条条検証 資料編＝判決全文、軍機保護法全文、年表
特別添付＝重要事項索引（別冊）

申し込みはFAX・メールで本会事務局まで（1面上部題字横に掲載）。送料税込み2300円。後払い。

オスプレイ配備強行に断固抗議すること、そのために行動することは極めて当然だ。しかし同時に夕刊ワイドが指摘するように、さらに日弁連が2014年に「日米地位協定の改定を求めて」と題した提言にあるように、翁長沖縄県知事の調査報告にあるように、大手を振ってのさばる米軍基地とオスプレイ配備強行の根底にある対米従属、いや屈辱の根源にある日米地位協定の全面的改定を、いまこそ日本政府に断固要求する行動が必要ではないか。（福島 清）